

ヤコブの手紙 5 章 13-20 節 「祈りの力」

今日の聖書箇所には「祈りなさい」という言葉が何度も繰り返して強調されています。

13 節の苦しんでいる人がいたら祈りなさい。喜んでいる人がいたら賛美しなさい。実にシンプルで分かりやすい勧めです。ヤコブは、いつも神に祈るようにというのです。なぜなら、祈りは神に向かってなされるものだからです。どのように祈ったらいいかわからないと、私たちはいつしか祈ることを止めてしまいます。私たちの父よと、もっと単純に、もっと純粋に、素直に祈りなさいというのです。神さまは、私たちがどのように祈るかということよりも、私たちにとって神さまがどのような存在であるのかを知り、神ご自身を求めることを願っておられるのです。

信仰による祈りには力があるということが書かれています。ヤコブは祈りについて、14 節以下の話を続けます。病気の癒しのために、まず神に求めなければなりません。そして、「主の御名によって」祈るのです。そしてオリーブ油を塗って祈ってもらうということです。主ご自身が癒してくださると信じて祈るところに、主の力が現される。それは、「信仰による祈り」と言えます。信仰による祈りは、病む人を回復させます。そして、主はその人を立たせてくださるのです。でも、15 節で「その人が罪を犯したのであれば…」とあります。どうして急に罪の話が挿入されているのでしょうか。すべての不幸の原因は、罪に由来していると考えられていたからです。それゆえ、私たちは、互いに罪を言い表し、互いのために祈らなければなりません。罪を告白するのは、神に対してなされるものであって、人に対してなされるものではありません。私たちは、自分の弱さを語りたがらないものです。けれども、教会は少なくとも自分の弱さを分かち合い、互いのために祈り合い、主からの癒しを受ける場です。肉体的な病も同じように、私たちは教会において祈ってもらい、そして癒しを受けます。互いに分かち合い、互いに祈り合い、互いにいたわり合って、主の癒しを受ける場なのです。なぜなら、義人の祈りは働く大きな力があるからです。「義人」とは、特別な人という意味ではなく、キリストを信じて神の義とされた人、キリストという義にしっかりと拠り頼んでいる人、という意味です。自分自身に頼らず、キリストのみを自分の正しさとして、この方の知恵によって生きる人のことなのです。そういう人の祈りには力があるのです。そして最後に、祈りには忍耐が求められるということです。教会は、キリストを知らない人々を救いに導くことも大切ですが、同様に、キリストを知って迷い出た人を回復させることも大切なことなのです。なぜなら、そのためにキリストは十字架につけられ、死んでよみがえられ、そして今も働き続けておられるからです。

自分では正しいと思っていても、いつしか神の真理から迷い出ていることがあります。互いに罪を言い表し、互いに真理に堅く立ち続けることができるように励まし合い、互いに罪を覆い、互いに祈り合いながら、神の御心にかなった歩みを目指していきましょう。それが、ヤコブが私たちに強く言いたかったことだったのです。